

令和8年度 東郷町立高嶺小学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時：令和8年6月18日（木）

13時30分から15時50分まで

場所：東郷町立高嶺小学校

1 開会の言葉（進行：教頭）

高嶺小学校教頭：加藤先生より開会の言葉

2 校長あいさつ

高嶺小学校校長：高村先生よりあいさつ

3 自己紹介及び高嶺小学校運営協議会の概要説明について

・自己紹介

各委員および学校側代表、事務局が順次自己紹介を行った。

・運営協議会の概要説明について

事務局より、コミュニティスクールの制度および運営協議会の役割について説明を行った。

学校と地域が対等な立場で教育方針を共有し、協力して学校運営を行うこと、また委員には守秘義務があることが説明された。

4 議事

(1) 会長の選出について

谷委員が会長に選出された。

(2) 副会長の選出について

谷会長の指名により、山下委員が副会長に選出された。

(3) 地域学校協働活動推進委員（コーディネーター）の承認について

推進委員として山田委員が承認された。

(4) 令和8年度の学校運営方針承認について

・学校教育目標について

学校より、児童数の減少と教員数の現状について報告があった。

全校児童は410名で、特別支援学級の増設や個別の指導が必要な児童の増加、外国籍児童（6カ国25名）の増加といった課題が示された。

教育目標に「たくましく、かしこく、ゆたかに」を掲げ、全職員が連携して取り組む方針が提示された。

重点努力目標として「明るく元気な挨拶」と「安全指導の充実」を挙げ、地域と連携した挨拶運動の推進や、実体験を伴う安全教育を行っていくことが承認された。

・業務量削減・健康確保に関すること

教員の長時間勤務と業務量の増大が課題である旨が説明された。

近年増加傾向にあるアレルギー対応などの命に関わる配慮が必要な業務や、個別の支援が必要な児童への対応により、教員が児童一人ひとりと向き合う時間や本来の

授業準備にあてる時間が圧迫されている現状が報告され、委員からは以下の視点から意見があった。

- ・教員の挑戦を支える環境の重要性：業務削減は重要であるが、それによって教員が新しい教育手法や探究的な授業にチャレンジする意欲まで削がれることがあってはならない。

業務をスリム化する一方で、教員がスキルアップを目指せる環境や、前向きな挑戦を学校として積極的に支援する必要性が共有された。

- ・ノウハウの共有と仕組み化：学校からは、教員個人の努力や能力に依存しがちな業務負担を減らすため、研究授業で作成された資料や教材などの教育資産を共有し、次年度以降も再利用できる仕組みを強化している旨の説明があった。
- ・連携の強化：学校内部だけでの対応には限界があるため、保護者や地域、教育委員会と情報を共有・連携しながら、持続可能な学校運営体制を構築することが不可欠であるとの認識が示された。

心身ともに健康な状態で教員が児童と向き合うことが、結果として教育の質の向上と児童の安心に繋がるという方向性で、業務管理と健康確保のための取り組みを行う方針が承認された。

(5) 高嶺小学校の地域とかかわる活動について

学校より、50 周年記念イベントの計画や、給食サポートの必要性、緊急時の情報共有方法の統一、地域文化の継承についての提案があった。

また、子供たちの出したゴミが地域に散乱している現状への指導依頼や、子供会活動の現状について、学校に相談が届くことについて協議が行われた。

委員からは、地域人材の活用や、外国籍児童・保護者への理解促進に向けた交流の必要性について話があった。

5 令和 8 年度学校運営協議会予定について

6 その他

和合ヶ丘区長から和合ヶ丘北公園での自転車マナーに関する懸念が共有され、学校と地域が協力して子供たちへ指導を行うことで一致した。

また、事務局より 8 月 21 日に開催される「コミュニティスクール全体研修会」への参加案内を行った。